

沖縄県による復元製作の記録について

令和 7 年 9 月

沖縄県



I. 沖縄県の記録集作成方針（案）

沖縄県による令和の復元の記録集の整理の方針について、首里城復興基金事業 監修会議等では、以下の意見があった。

第11回彫刻WG部会(2025.2月開催)にて

- ・教育現場では関心を持っている人が多い。何を必要としているか、現場の聞き取りが必要である。

第6回監修会議(2025.3月開催)にて

- ・「造形根拠の整理」「同時代の伝世品等で検討」の伝世品が何かを丁寧に記載すると、（所有者等に）調査依頼が増加し、資料保全への影響が懸念されるので、注意いただきたい。
- ・「造形根拠の整理」「その他」欄は造形推定の根拠の資料になると思う。将来を考えると、バックデータでもよいのできちんと整理しておいたほうがよい。

第12回彫刻WG部会(2025.6月開催)にて

- ・一般の方の興味を引きわかりやすく伝えるものは別媒体で考えるべき。
- ・技術的記録がメインなので、（記録集は）一般の方向けではないと考える。
- ・記録集の作成にあたっては、観光面からも教育面からも話は聞いた方がよい。
- ・将来に向けての申し送り事項は、しっかりと記録しておきたい。



上記を踏まえて作成方針を以下のように設定する。

※赤字は前回監修会議提示の（案）より追加

【首里城復興基金事業の記録集の作成方針】

■復興基金事業記録集作成の目的

- ・監修会議及びワーキング部会や監修の検討内容のまとめ
- ・製作過程や製作手法の決定に係る根拠の明確化
- ・製作物の修復や維持管理、新たに製作する際の参考資料
- ・製作技術者における伝統技術の継承、人材育成の参考資料

■記録集の位置づけ

- ・今回の復興基金事業の取り組みの成果報告とする。
- ・成果物の情報や検討経緯を細かく整理して、後世に引き継ぐ資料とする。（広く興味関心を集めることを主眼にしない）

■記録集の主なポイント

- ・製作物の概要（寸法、材料、製作者、製作工程等）、検討経緯、成果物、関係資料等について、写真や図を使用しながらこれまでの成果を冊子版として編集する。
- ・国から提示された仕様を踏まえながら、本事業にて分析した成果（デジタル高精細写真等）を含めて、平成の復元との違いを整理する。
- ・製作段階や監修の際の細部の検討経緯、製作技術上のポイント、県産材活用の留意点、今後の課題等を取りまとめる。

2. 目次構成（案）

【前段】
事業全体
について

材料調達
の記録

【メイン】
製作物ごと
の検討・
製作記録

はじめに

第1章 背景・概要

1. 経緯
2. 首里城復興基金事業の位置づけ
3. 材料調達および製作対象物
4. 検討体制
5. 事業スケジュール

第2章 材料調達

1. 木材調達
2. 石材調達

第3章 石彫刻

- ・ 礎盤
- ・ 礎石
- ・ 大龍柱
- ・ 大龍柱の台石
- ・ 小龍柱
- ・ 石高欄及び登り高欄 親柱上の獅子
- ・ 石高欄（親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石）
- ・ 持送石
- ・ 地覆石
- ・ 石階段

第4章 木彫刻

- ・ 唐破風 妻飾（火焰宝珠、蟬股、金龍、瑞雲）
- ・ 唐破風 懸魚
- ・ 入母屋破風 懸魚
- ・ 向拝 透欄間（牡丹唐草、獅子）
- ・ 向拝奥の彫刻物（牡丹に獅子・唐草）
- ・ 向拝奥の彫刻物（金龍）
- ・ 向拝奥の彫刻物（獅子）

- ・ 2階 御差床 須弥壇（高欄含む）
- ・ 2階 御差床 龍柱
- ・ 2階 御差床 羽目板
- ・ 2階 天井額木
- ・ 2階 内法額木
- ・ 1階、2階 台御差床
- ・ 国王専用階段（おちよくい）内部手摺
- ・ 2階 外部窓手摺

第5章 焼物

- ・ 龍頭棟飾（大棟）
- ・ 龍頭棟飾（唐破風）
- ・ 降棟 鬼瓦

第6章 瓦類

- ・ 磚
- ・ 赤瓦
- ・ 雲形飾瓦（宝珠含む）

第7章 染織

- ・ 1階 御差床 垂飾（瓔珞）

第8章 図録・資料集

1. 製作風景写真
2. 製作の各段階を示す資料一覧
3. 清書下図
4. 製作関係者一覧
5. 参考写真・史資料・遺物一覧
6. 県公報等関係資料

編集後記

【メイン】
製作物ごと
の検討・
製作記録

関連
資料集

3. 製作物ごとの検討・製作記録内容（案）

大項目	中項目	内容	確認事項
製作物の概要	当初の仕様	国から受けた当初仕様を記載。（大項目の「造形や製作技術等の検討経緯」の前提）	
	寸法	完成形の寸法を記載。	• 必要に応じて、各WG部会で製作物毎に計測・整理方針を確認。
	材料	使用素材を記載。（さらに細かな配合等記録すべき事項があるものは、大項目の「製作工程」や「造形や製作技術等の検討経緯」にて記載）	
	製作数	予備納品数も含めて、製作した数を記載。	
	製作者	工程ごとの製作者を記載。	
	新たな知見・平成復元との違い	WGや監修に諮り決定した、ある程度大きな違いについて、箇条書きで概要を記載。	
製作工程	検討・製作フロー	製作現場での作業の流れに加えて、WGや監修での調査・監修等のタイミングを記載。	
	製作工程写真・作業内容	視覚的にイメージできるよう製作工程の写真を掲載し、その作業内容を簡潔に文章で整理する。必要に応じて、監修者や製作技術者より共有された製作上の工夫を記載。	
造形や製作技術等の検討経緯	※中項目は製作物による	各製作物で取り上げるべきトピックを選定。トピックごとに、検討のきっかけ、検討経緯・内容、結論を整理して記載。	• 各WG部会で製作物毎に詳細のトピックを確認。
成果	製作の各段階を示す資料	引き渡し品の他、各段階を示す資料がある場合に記載。（資料の詳細は「第8章 図録・資料集」にて記載）	
	製作作業完成後の状況	正殿建築工事(国発注)へ引渡した時点の写真記録を掲載。	
	設置後の状況	引渡し後の工程も終え、正殿設置後の写真記録を掲載。	
	将来への申し送り事項	本事業において、現時点では造形見直しに至る根拠資料が乏しいため平成復元踏襲としたもの、記録として残すことを前提に承認を得たものなど、申し送り事項を整理。	• 各WG部会で製作物毎に詳細の申し送り事項を確認。

4. 記録集作成の進め方・スケジュール（案）

- 記録集は、正殿完成予定の令和8年度中を目途に、内容を取りまとめる。【第6回監修会議で確認済】
- 製作物の完成・納品が進んでいる中、製作者および監修者の記憶が新しいうちに「製作物ごとの検討・製作記録」部分を取りまとめたい。よって、令和7年度は製作者・監修者等へのヒアリングを行いながら、製作工程、造形や製作技術等の検討経緯について整理していく。
- 本日の監修会議にて、目次構成および「製作物ごとの検討・製作記録」での整理項目の方向性を固めたい。
- 製作物ごとに整理する、造形や製作技術等の検討経緯で取り上げるトピックについては、事務局でたたき台を整理した後、各WG部会において各々の詳細を確認しながら内容を詰めていきたい。

■スケジュール（案）

※今後の検討に合わせて変更の可能性あり

